

1. 合唱 <詩篇 74:12>

Gott ist mein König von altersher, 神は昔から私の王、
~から 昔
der alle Hilfe tut, so auf Erden geschicht. 彼は地上に起こった全ての助けを行ってください。
[関]全ての 助け 行う 上 地 起こった schichten 層を成す→[充分]geschichtet → Geschichte 歴史・起こったこと

2. アリア(T) & コラール(S) <サムエル記下 19:38>
ヨハン・ヘールマン作“O Gott, du frommer Gott” (おお神よ、汝正しき神よ) 第 6 節

Ich bin nun achtzig Jahr, 私は今や八十歳だ、
今や 80 歳
warum soll dein Knecht sich mehr beschweren? なぜ、これ以上、汝の下僕に重荷を負わせるのですか?
なぜ (他者の意志) 汝の下僕は 自ら より一層 重荷を負わせる

Soll ich auf dieser Welt ~べきだ ~で この 世 mein Leben höher bringen, 命を より高く 持って行く hoch比較級 durch manchen sauren Tritt ~を通して 多くの 酸っぱい・困難な 歩み hindurch ins Alter dringen, ~を通り抜けて ~へ 高齢 達する	この世で私が Soll=他者の意志、神の意志 年齢を重ねて行き 多くの困難な歩みを通して 高齢に達するべきであるというならば、
---	---

Ich will umkehren, dass ich sterbe in meiner Stadt, 私は戻ろう、自分の町で死ぬために、
引き返す ~の目的で 死ぬ 私の 町
bei meines Vaters und meiner Mutter Grab. 私の父母の墓の側で。
父の 母の 墓

so gib Geduld, für Sünd 与えよ 忍耐 から 罪 für ← vor und Schanden mich bewahr, 恥 私を 守れ auf dass ich tragen mag ~するため 私が 着用する ~したい mögen1単 mit Ehren graues Haar. ~と共に 栄誉 白い 髪	どうぞ忍耐をお与えください、 罪と恥から私を守ってください、 jn vor et3 bewahren jn を et3 から守る そうして私が 栄誉のうちに白髪を戴けるように。
---	--

3. 合唱 <申命記 33:25> <創世記 21:22>

Dein Alter sei wie deine Jugend, あなたの老後が、若い頃のごとくありますように。
老齢 であれ(命) のように 青年
und Gott ist mit dir in allem, das du tust. 神はあなたが為す全てにおいて、あなたと共にいます。
神は 全てにおいて [関] 為す

※申命記33:25は、最新日本語訳聖書では次のようになっている。上1行眼はこの後半を敷衍した歌詞ということになる。
「あなたのかんぬきは鉄と青銅。あなたの強さはあなたの生きる限り続く。」

4. アリオゾ(B) <詩篇 74:16-17>

Tag und Nacht ist dein. 昼も夜もあなたのもの。
昼 夜 あなたのもの
du machest, dass beide, Sonn und Gestirn, あなたは、太陽と星の両方が
創造する [接] 両方が 太陽 と 星

ihren gewissen Lauf haben.

それらに 確かな 進路を 持つ

Du setzt einem jeglichen Lande seine Grenze.

置く =jeder各々の 土地に(3格) その 境界を(4格)

確かな進路を持つように創造されました。

あなたはそれぞれの地にその境を設置しました。

5. アリア(A)

<作者不詳の自由詩>

Durch mächtige Kraft

~によって 強大な 力

erhältst du unsre Grenzen,

保つ 汝は 我らの 境界を

hier muss der Friede glänzen,

ここで 平和は 輝く

wenn Mord und Kriegessturm

もし 殺人 戦いの嵐

sich allerort erhebt.

全ての場所で 立ち上がる[再帰 sich erheben]

Wenn Kron und Zepter bebt,

もし 王冠 王笏 揺れる

hast du das Heil geschafft

救済を schaffen なんとか作り出す

durch mächtige Kraft!

~によって 強大な 力

強大な力によって

あなたは我らの境を保持してください。

ここでは平和が輝くに違いない、

たとえ殺戮と戦いの嵐が

いたるところに起こっても。

もし王冠と王笏が揺らいでも

あなたはすでに救済を生み出しておられます、

強大な力によって。

6. 合唱

<詩篇 74:19 >

Du wollest dem Feinde nicht geben

2単接 I=要求・祈願 敵に 与えない

die Seele deiner Turteltauben.

敵に与えないでください、

あなたの鳩の魂を。

Turteltaube 小鳩

7. 合唱

Das neue Regiment

新しい 統治(中性4格) Regime政権

auf jeglichen Wegen

どの 道・経路・過程

bekrone mit Segen!

冠をかぶせよ(命) 祝福

Friede, Ruh und Wohlergehen

平和 安心・休息 健康・繁栄が

müsse stets zur Seite stehen

3単接 I 常に 側に jm zur Seite Stehen ~を援助する

dem neuen Regiment.

新しい 政権を

Glück, Heil und großer Sieg

幸運 救済 大きな勝利が

muss täglich von neuen

日々 新規に

Dich, Joseph, erfreuen,

喜ばせる

dass an allen Ort und Landen

[接] ~に 全ての場所 土地

ganz beständig sei vorhanden

全く 不変の あれ(命) 存在する

Glück, Heil und großer Sieg!

新しい統治を

どの過程においても

祝福をもって飾ってください。

平和と安心と繁栄が

必ずや、常に守り立ててください、

接 I=要求・祈願

新しい統治を。

幸運と救済と大きな勝利が

日々に新たに

あなた、皇帝ヨーゼフを喜ばせるに違いありません。

すべての場所と土地において

全く変わることなくありますように、

幸運と救済と大きな勝利が。

1685 年生まれのバッハは 1703 年 4 月、18 歳でヴァイマル宮廷楽団のヴァイオリン奏者として就職し、同年 8 月にアルンシュタット新教会のオルガニストに転職した。ところがここで、聖歌隊員の生徒と喧嘩沙汰となったり、一ヶ月の休暇を申請してリューベックまでブクステフーデの演奏を聴きに行ったら休暇期間を大幅にオーバーしてしまったりと、数々の問題を起こし、次の職場を探すことになる。

するとそこに 1706 年 12 月、ミュールハウゼン市の聖ブラジウス教会オルガニストだった J.G.アーレが死去し、同市参事会がその後任を募集する、という話を聞きつけたバッハはこれに応募し、1707 年 4 月 24 日の復活祭の日に試験演奏を行うこととなった。そこで演奏されたのがカンタータ第 4 番「キリストは死の縄目につながれたり」である、という説を、口短調ミサの研究で知られるクリストフ・ヴォルフが説き、磯山雅氏もその著書『バッハ＝魂のエヴァンゲリスト』に書かれている。もしそうであれば、これが現存最古のバッハ作のカンタータということになる。

バッハはこのミュールハウゼンの職を翌 08 年 6 月までつとめた。しかし当時、同市の教会には「正統主義と敬虔主義の対立」という問題があった。

正統主義がルター以来の伝統に忠実に、神を賛美する音楽の力を重視していたのに対し、敬虔主義は、霊的体験を重視するあまり、礼拝における音楽は黙想を妨げるものとして軽視していた。

ミュールハウゼン市内の 2 つの教会のうち、聖マリア教会のアイルマー牧師が正統主義なのに対し、バッハの上司である聖ブラジウス教会のフローネ牧師は敬虔主義だった。バッハは当然、正統主義であるから、上司とは常に対立状態にあった。08 年 6 月 25 日にバッハが市参事会に提出した辞職願にも、「悶着を起こさずに事が運んだためしは無かった」と書いているほどである。結局、翌 7 月にバッハはヴァイマルの宮廷オルガニストに転じた。

バッハがミュールハウゼンで書いたカンタータには、まず 07 年 7 月の第 131 番「深き淵より」がある。これは聖マリア教会アイルマー牧師の依頼で、5 月末に起こった同市の大火後の悔い改めの礼拝用に書かれたものである。8 月には母方の伯父の葬儀のために第 106 番「神の時はいと良き時」を書いた。

その後、翌 08 年 2 月に、これまた聖マリア教会で行われた市参事会員交代式のために書いたのが、この第 71 番「神はいにしえより我が王なり」である。その後はミュールハウゼンを去る直前 6 月 5 日、前任地アルンシュタットのシュタウバー牧師（バッハの結婚式を司式した）の婚礼に出席して、そこで第 196 番「主は我らを御心に留めたまえり」を演奏した。

ミュールハウゼン時代の作とされるバッハのカンタータは、以上 5 曲だけである。つまり彼が勤めた聖ブラジウス教会用のカンタータは第 4 番以外には 1 曲も残っていない。これは辞職願に書かれた「悶着」のためであろう。

このように、上司の牧師とは対立していたバッハだが、彼の採用を決めたミュールハウゼン市参事会との関係は良好だったようだ。というのも翌 09 年の参事会員交代式のためのカンタータも、ヴァイマルに転職していたバッハが依頼を受けて作曲しているからである（ただしその曲は残っていない）。

この第 71 番は、初演直後にミュールハウゼン市が印刷出版しており、バッハの生前に印刷譜が出版された唯一のカンタータでもある。自筆総譜やオリジナルのパート譜も伝承されており、資料の保存状態がきわめて良好である。

全 7 曲からなり、オーケストラ編成もトランペット 3 本とティンパニを含む大規模なものになっている。歌詞は詩篇 74 をメインとし、これにその他の聖句や作者不詳の自由詩を付加したものである。以下、簡単に内容を紹介する。

第 1 曲----詩篇 74:12。神は王である。

第 2 曲----サムエル記、およびヘルマン作のコラールによって老齢で退職した参事会員をねぎらう。

第 3 曲----申命記・創世記によって、参事会に残留する長老たちを励ます。

第 4 曲----詩篇 74:16-17。神の創造したこの世の摂理。これに従った政治を新しい参事会にもとめる。

第 5 曲----自由詩。戦乱のおいても平和を守る神の力を説く。

第 6 曲----詩篇 74:19。神は自分の鳩の魂を敵に引き渡すことはない。

第 7 曲----自由詩。新しい参事会の統治が皇帝ヨーゼフも喜ばせるだろう。

※第 4 曲の「戦乱」は、ヨーロッパ主要国のほとんどが参戦していたスペイン継承戦争(1701-14)のことか。

第 7 曲の「ヨーゼフ」とは、オーストリア・ハプスブルク家の神聖ローマ皇帝ヨーゼフ 1 世(1705-14)のこと。